

## 「調べる・考える・伝える」活動を行うために

本書で扱われる科学の問い

## Lesson 9

## 日本語は曖昧で非論理的な言語なのか？

日本には昔から、「日本語は非効率的な言語である」「日本語は非論理的な言語である」という意見が存在しています。そして、漢字は廃止したほうがよい、さらには公用語を英語やフランス語にすべきだといった提言が繰り返されてきました。「英語のほうが論理的に考えられる」と語る人も少なくありません。しかし、それは本当なのでしょうか。実は日本人に限らず、人間は母語よりも外国語で考えたときのほうが論理的になるという性質があって、これは「外国語効果」と呼ばれています。すなわち、外国の人々が母語よりも日本語を用いたほうが論理的に考えられるという場合すらあるのです。

## Lesson 10

## 「失語症」の症例から我々は人や社会について何を学べるのか？

言語学者のロマン・ヤーコブソンは失語症の症例をつぶさに分析して、似たような言葉の集合から一つを選択することができなくなる「相似性異常」と、現実の文脈の中で関連性を持つ言葉を結合することができなくなる「隣接性異常」という二つのパターンに分類することができることを指摘しました。この失語症の分類は、人間の言語が持っている本質的な二つの機能にも対応しています。そしてヤーコブソンは、この言語の機能と失語症の二分類を用いて、人間の文化や社会の特質を描写することもできると言いました。それはどのような理論なのでしょう。

## 4 Unit

## Lesson 11

## 社会の「絆」は人々の心を救うことができるのか？

日本では1990年代後半に経済の停滞が始まって以降、自死で亡くなる人の数が大幅に増加しました。近年は減少傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症が広がった2020年から、自死で亡くなる人の数に再び増加傾向が見られ、深刻な社会問題となりました。その背景にはどのようなメカニズムが存在するのでしょうか。19世紀に社会学者のデュルケムが本格的に研究を行って以来、自死で亡くなる人の数に影響を与える社会構造については様々な研究が行われてきました。そして現代において、人々の命を守る上で重要な要因とされているのは、「社会的統合」なのです。

## Lesson 12

## 紙の本、手書きのノート、対面での会話は時代遅れなのか？

パソコンやスマートフォンが広く普及して、紙の本や雑誌を読むことも、手書きで文章を書くことも少なくなりました。また、2020年に急拡大した新型コロナウイルス感染症の影響で、インターネットを使ったオンライン授業やテレワーク(在宅勤務)、オンライン会議などが一気に広まりました。この傾向は今後も加速するでしょう。しかしその一方で、紙の本のほうが読みやすく、ノートは手書きのほうが取りやすく、大事なことは会って話したいという人が多いのも事実です。「紙」「手書き」「対面」は、本当に時代遅れになってしまったと言ってよいのでしょうか。

## 5 Unit

## Lesson 13

### 頭脳明晰な人々も大きな失敗をするのはなぜか？

経営者や政治家などのリーダーたちは、皆とても優秀な人材であるはずなのに、企業や国家を大きな失敗に導くことがしばしばあります。それは、彼らの頭脳の明晰さが足りないからなのでしょうか。実は、最近の心理学の研究に基づくと、むしろ「頭脳が明晰であるがゆえに陥りがちな失敗」というものも存在することがわかります。頭のよい人たちは、物事の重要な部分に意識を集中してその他の情報を遮断することや、現象の背後に隠されたパターンを探すことで、鋭い分析やひらめきを得ています。しかし、それは同時に、物事の過度な単純化にも繋がり得る思考法なのです。

## Lesson 14

### 人はなぜ「陰謀論」を信じるのか？

「陰謀論」とは、広く認められている事実を疑い、「世の中の裏側では特定の人や組織が悪事を働いているに違いない」と勘ぐるような言説のことです。もちろん、世の中に様々な陰謀が実際に存在することは事実でしょう。しかし、陰謀論というのは、過度な思い込みによって、客観的な事実を歪めてしまうことが多い思考形式の一つであり、安易に信じるのは考えものです。しかしながら、それにもかかわらず、陰謀論が多くの人に支持されるのはなぜなのでしょう。近年では、陰謀論を信じる人々の心理についての分析が進んでおり、「不安」の強さが関係している可能性があることが指摘されています。

## Lesson 15

### 人は「未来の自分」をどこまで想像できるのか？

未来に関する予測は難しいもので、むしろ外れることが多いのが現実です。ところが人間は、往々にして自分の予測能力を過信しており、自信たっぷりに将来の予測を語りがちです。これはなぜなのでしょう。近年の心理学者たちの研究によって、人間は自分自身の性格や価値観についてすら、過去に大きく変化したことを忘れ、将来は現在と同じままであると思いつつ「歴史の終わり」幻想を抱いていることがわかってきました。つまり、未来は常に大きく変化するのですが、人間はその変化の幅を常に過小評価しているのです。

# 6 Unit